

平成23年度第1回協働事業評価会

平成23年10月13日（木）午後1時00分

区役所第一分庁舎 7階 研修室B

出席者 久塚委員、宇都木委員、竹内委員、野口委員、的場委員、伊藤委員、村山委員
事務局 地域調整課長、早乙女協働推進主査、西堀主査、高橋主事

久塚会長 きょうはことし採択された新事業二つということになっております。

では、来られる前までに、簡単に説明を。

事務局 まず、資料の確認からさせていただきます。本日配付している資料が、資料1、「協働事業評価書」、これ、委員の皆様にご覧いただきシートとなっております。①と②がございまして、①が初めのほうでヒアリングを行います赤ちゃん木育広場事業、②が家庭訪問型子育てボランティア推進事業となっております。きょうヒアリングしたメモなどにお使いいただければと思います。

それから、参考資料として「協働事業の評価にあたっての主な着眼点」、A4の1枚のものをお配りしております。

それから、協働事業の評価スケジュール、評価と審査の今後のスケジュールなのですが、10月20日に当初予定していた審査会を10月31日の月曜日に変更しましたので、その変更を入れた修正版となっておりますのでごらんになっておいてください。

あと、それから情報提供で、まず『広報しんじゅく』9月25日号。日本グッド・トイ委員会さんのほうと協働事業を行っています赤ちゃん木育広場が10月1日にオープンしましたという記事です。そのお知らせと、10月5日号に載りました「聞こえに困っている人のためのリハビリテーション講座」の募集の記事となっております。

それから、続きましてグリーンのチラシで、新宿NPO活動交流事業ということで、大久保の地域の方たちとNPOとの交流事業を11月14日の午前中に開催する予定となっております。この交流会は新宿NPOネットワーク協議会と新宿区が協働によって行っております新宿NPO活動交流支援事業の一環として実施しております。

それから、ピンク色のチラシが10月16日にふれあいフェスタというお祭りがあるので、そこにNPOブースとして出店をいたします。新宿NPOネットワーク協議会が出店するのですが、私たち地域調整課もブース内にテントを設け、フランクフルト

とワインを販売する予定ですので、お時間ございましたらどうぞお越しください。戸山公園で行います。

あともう一つ、「施設の子どもたちの学習を支援する活動」ということで、これは新宿NPOネットワーク協議会が主催しております市民とNPOの交流サロンで、NPO法人3keysという大学生が中心に行っている団体なのですが、活動内容の発表がありますので、もしお時間ございましたらのぞいてみてください。

あと、それと冊子をお配りしております、『新宿区NPO』という冊子ですが、こちらのほうは今年度市民レポーター養成講座を修了した方たちがNPO活動資金助成による昨年度の実施事業と、今年度実施する事業の取材を行って作成したものです。どうぞ後でごらんになってください。

それから、あと事前配付資料として、きょうヒアリングを行います2事業の自己点検シート、相互検証シートとかを事前に送らせていただいております。そちらのほうはきょうお持ちになっていらっしゃるでしょうか。お忘れの方、いらっしゃらないでしょうか。

以上になります。

久塚会長 はい。では、評価会の説明を事務局お願いします。

事務局 この評価会は公開になりますので、また議事録作成のため、発言の前に皆さん、お名前のほうをお願いいたします。

それから、きょうの進め方なのですが、初めにヒアリングのほうですが、まず最初に事業の概要と実施状況について、提案団体さんのほうから5分程度で説明をしていただくことになっています。その後、事業課のほうで補足があれば説明をさせていただきます。

それから、説明が終わった後で委員から事業課、提案団体に対しての質疑を行っていただきます。その際に本日参考資料でお配りしました「評価にあたっての主な着眼点」のほうも参考にしてください。

それから、対象の事業について委員から質問だけではなく、事業課とか団体へのアドバイスやコメントがありましたら必要に応じて一緒をお願いいたします。

ヒアリングの時間は30分、それから引き続き委員と事業課と団体の三者による意見交換の時間を25分で、合計で55分、1事業に対して時間をとっています。

この2事業のヒアリングと意見交換が終わった後で1回休憩を10分程度とりまして、それから事業課と団体さんのほうが退席した後、委員の間で共通認識を持つための情報交

換を行っていただくようになります。

本日実施しますのは昨年度採択されて、今年度新規で実施しております2事業になります。まず初めが、赤ちゃん木育広場事業、実施しているのがNPO法人日本グッド・トイ委員会と子ども家庭課になります。

それから、2番目が家庭訪問型子育てボランティア推進事業で、団体が二葉保育園で、事業課が子ども総合センターになります。

以上です。

(NPO法人日本グッド・トイ委員会・子ども家庭課担当職員着席)

※NPO法人日本グッド・トイ委員会の発言については「グッド・トイ」と標記します。

久塚会長 はい、ありがとうございます。

では、時間前になってしまいました。約5分間ということなのですが、内容はたくさんあるとは思いますが、そして補足がありましたら子ども家庭課のほうから補足をいただければと思います。

では、よろしくをお願いします。

グッド・トイ 皆さん、こんにちは。認定NPO法人日本グッド・トイ委員会で、東京おもちゃ美術館を担当しております石井今日子と申します。よろしくお願いいたします。

今回の事業の概要について簡単にお話しいたします。東京おもちゃ美術館の中に新宿区在住の0、1、2歳のお子さんとその保護者の方が無料で利用できる赤ちゃん木育広場をつくるということです。木のおもちゃの持ついやし効果や多世代・ボランティアと触れ合うことで子育て中の保護者の負担感を軽減し、新たな学びの場にしていく。そのためにホスピタリティのあり方、おもちゃ選びや環境設定を築いていく。

また、赤ちゃん木育サポーター養成講座、これはボランティア養成講座ですが、開催し、ボランティアの人材育成の仕組みをつくる。また、赤ちゃん木育広場サポーターが専門性を身につけるために、受講後も講習会・講演会を開催して質的な向上を図る。

木育の効果を筑波大学の協力により測定を行い、その結果を広場事業に生かすということを主な事業の概要としております。

この事業ですね、赤ちゃん木育広場、ことしの10月1日に無事オープンにこぎつけまして、今2週間ちょうど経過したばかりのところでございます。ことしの4月から今まで

の経過を簡単にご説明いたします。もともとおもちゃ美術館の中で去年のちょうど10月から、ちょうど1年前からですが、今回こういった広場を開設することを考えて試行的な赤ちゃん木育広場というものをあいている教室で週3回開催しておりました。月・水・金だけの開催だったのですけれども、その中でしつらえも不十分な中で今まではやっておりましたが、それを継続するとともに、ボランティアの育成をここの9月までの間は主にそのことに力を注いできております。

6月30日に第1回目の赤ちゃん木育サポーターの養成講座というものを開催いたしました。こちらが定員が20名のところを区報のこの6月15日号の告知で、1週間ぐらいでもう満員になってしまいまして、大変関心の高さを感じました。そこで20人の申し込みがありました。

8月22日には第2回目の赤ちゃん木育サポーターの養成講座、同じく定員20名で開催いたしました。

この内容は、埼玉大学の浅田茂裕先生、この方は木育の専門家でいらっしゃるのですが、日本の木材の話とか、それを生活用品やおもちゃにどういうふうにかかして、人にどんな効果があるのかというようなお話を中心に聞いたり、あるいは筑波大学の安梅勅江先生、この方はエンパワーメントの専門家でいらっしゃるのですが、こういう子育て広場の中で親御さんたちをどんなふうにか元気づけていくとか、そういったときにどんなふうにかボランティアがサポートするあり方ですね。そういったソフト面でのお話を伺ったり、半日の講座ではありますが、意欲的に講座を新宿区の方々40名参加されましたので、受けていただくことができました。

6月と8月のその養成講座からまたしばらく間があきまして10月からのオープンということになりましたので、その間の皆さんは主に試行でやっている月・水・金の木育広場に実際に実習のような形で入っていただきまして、お母さんや赤ちゃんたちと接するというような準備をしておりました。

それと並行しまして木育広場の中で主に杉材を使った環境設定と、あとおもちゃですね。また、こういったこれはスギコダマという大分県の造形作家の有馬晋平さんに指導していただいてみんなでつくったものなのですけれども、これは秋田の秋田杉と吉野杉を木端から切り出しナイフで削って、一つずつ磨いて、サンドペーパーで磨いていってこういった形になるのですけれども、これを赤ちゃん木育広場の1つ目玉としまして、今300個、部屋の真ん中のちょっとプール状に掘り下げたところがあるのですが、そこに置いて実際

に赤ちゃんたちに、触れていただくというようなことを10月からやっていますが、これを実際に300個ボランティアでつくろうというプロジェクトを立ち上げまして、みんなでワークショップをしまして、実際に有馬さんの個展を見学に行くところから始めて、つくり方を教わって、一つ一つ心を込めてこれをつくるというようなことをしてみんなで気持ちを高めていった。そういった準備段階が9月まで進みました。

9月の中旬に、実際にもともとおもちゃ美術館の中にありました理科室でそれを着工いたしましたして、完成をして、9月28日にプレオープンを迎えました。これはもう今まで常連のお母さん方にちょっと広場に来ていただいて、安全の確認とかおもちゃの配置等をみんなで検証いたしました。

10月1日のオープンを迎えました。現在こういった赤ちゃん木育広場ができ上がりました、すみません、ちょっと小さい写真ですけれど。これが小さいスギコダマ300個と、あと大分県の有馬晋平さんがつくったこの大きな造形物、滑り台とかトンネルとか、実際に赤ちゃんが遊ぶことができるこのような造形物を置いております。

これは、エントランスのところですよ。

これは今回の新宿区との協働事業でこのようなものができましたというご案内。

これが10月1日のオープニングのセレモニーの様子です。これにかかわってくださったいろんな作家さんとかボランティアさん、皆さん集まって迎えることができました。

これはプレオープンのときです。実際にボランティアの人たちがおもちゃを使って、お子さんたちにこれは人形劇を見せているところです。あるいは、木のおもちゃでこれ、みんな遊んでいる風景でございます。

今こういう形でスタートしたところでございます。

久塚会長 よろしいですか。

グッド・トイ はい。

久塚会長 10分に始めたにしてはちょうど5分前と、ちょっと1分半ぐらい早かったので。

子ども家庭課さんのほうから補足をされることはございますか、この事業について。

事業課 やはり現代は核家族化が進んでいるという中で、ご利用の保護者の方がいろいろな年代のボランティアの方と交流することで、いろいろと子育てについて相談したりとか学んでいただいて、そういう悩みとかご理解いただけるというところで、また子育てに対する負担感というか、大変さを少しでも軽減していただけるいやしの場になるといいな

というふうにこちらも考えておりました、そのようにお伝えもしております。

久塚会長 はい、よろしいですか。

事業課 活動支援係長の牧野と申します。集まっていた保護者同士のコミュニケーションの中で、少しでもお互いの実感として抱えている子育ての悩みなんかもこう話し合う場が今後はできることを期待してこの事業の推進をお願いしております。

久塚会長 ありがとうございます。

では、ヒアリング、それぞれの委員の方から質問があると思いますので、どなたからでも結構ですので、発言の前に議事録作成のためにお名前をお願いします。はい、伊藤さん。

伊藤委員 伊藤です。まず区内在住で2歳までのお子さんの住所、年齢がわかるものを受付で出すと無料パスが発行されるという形なのですが、その発行されたといいますが、その来た方の住所だとか何かは一覧表とかつくるのですか。

グッド・トイ このような今、新宿区民の方向けのパスをつくっておりますが、健康保険証とか、あと母子健康手帳ですね、そういったものを提示していただいております。今、申込書をつくっております。

伊藤委員 ああ、申込書があるのね。

グッド・トイ はい。そういった形で今のところ管理しています。概要についてお知らせをしているものと、この部分が申込書なのですが、これを今保存しているというところがございます。

伊藤委員 なぜかという、僕は最初これがスタートする時点のときの懸念されたもので、地域的な偏りが出るんじゃないかなと、四谷地区なので。例えば今言ったように住所をわかるものがあれば、その偏りがあるのか、ないのか、今後わかると思うのでこういう質問をさせていただきました。

それと、まだ始まって2週間なのですが、0歳、1歳、2歳というのですが、その親御さんと来て、その子どもたちが興味の対象が異なるのか。

というのはなぜかという、その2歳が多ければそっちのスペースをふやすだとかいろいろ考えなきゃいけないと思うのですが、そういうのがあるか、ないかをちょっと聞かせてください。

グッド・トイ そうですね、今、平日パスを始めまして2週間で、実際にこれが平日のみであるということから、5日間ぐらいなのですね、まだやっていますのが。その中で全体で今80名のパスを発行しました。その中で0歳が25部、1歳が44、2歳が11と

非常に1歳の方が多いようなのです、いらっしゃる方。これはまだ今後どうなるかわかりません。

実際遊ぶ内容はやはり偏りはあります。今のところで言えば1歳の方が遊ぶのが非常に楽しいという様子は見てとれますので、今後また考えていかなきゃいけないですね。

伊藤委員 もう一つ、今それを聞いたのは、一つにすれば子どもたち、0歳の子どもが1歳、2歳になり、その遊びが連続しているような形であればと思ってその質問をしたのですけどね。

グッド・トイ そうですね、ありがとうございます。

伊藤委員 それともう一つなのですが、この自己点検シートの4ページ、クエスチョンの24、外部とのネットワークについてなのですが、**「地域の方々の受け入れ態勢も整い」**と書いてあるのですが、具体的にどのようなことが地域の態勢として整ってきたのかを知りたいのです。

グッド・トイ 私ども四谷地域の四谷ひろばという建物の中でおもちゃ美術館を運営しておりますが、今回のこの開設に当たりいろんなご近所の方にごあいさつに行ったりとか、あとはその四谷ひろばの中の方々ですね。この方々とかこういったものができますよということをお話ししたり、また新たなボランティアを集めますというようなことを、この確認の態勢が整ったという意味で書かせていただきました。

伊藤委員 主には内部の問題、その地域、四谷の場所のこの内部の問題ということですね。

グッド・トイ そうですね。

伊藤委員 その新宿区全体よりも四谷地域のね。

グッド・トイ そうですね。

伊藤委員 はい。では、以上です。

久塚会長 村山さん、どうぞ。

村山委員 伊藤委員と同じような質問なのですが、平日無料パスがまず5日間ということで発行されているのですが、大きく出張所単位で結構ですので、今割合としてはどんな感じですか。

グッド・トイ いらっしゃるお子さんの割合ですね。

村山委員 たしか当初のお約束では、区民全員が来ていただけるようにということだったので、ただもう既に登録されている方がいら

っしゃるということなので、今現在の中でもって地域別というのはどんな感じですか。

グッド・トイ ちょっとそのデータが今まだ手元にないのですが、80人のうちやはり四谷地域の方が多いですね。今まで知っているということもありまして、ただそれ以外の地域、早稲田とか、あと落合のほうからバスに乗ったり電車に乗って来てくださる方もふえております。全くないということではないです。

村山委員 わかりました。それは出していないということですね、地域別には。

グッド・トイ そうですね。

村山委員 わかりました。それからもう一つ、2歳までのお持ちのご家庭にどのようなPRをして、直接的なPRをされたのか、それを教えてください。

グッド・トイ 今のところはホームページでお知らせをしているという段階なのですが、けれども、この新宿区民平日パスのお知らせといったものを今、子ども家庭課さんのほうとも一緒にお誕生祝い品ですね。

事業課 はい、誕生祝い品に伊那市の木でできたおもちゃを送るというのを行っておりますので、そこに申込書を一緒に入れて、各お誕生祝い品を請求なさった方にお配りしたりとか、あと9月25日号の広報でも赤ちゃん木育広場がオープンしますというのと、平日パスのことを載せさせていただいております。

村山委員 それで、これからはもっと違う方法を考えていらっしゃるのかどうか、それも教えてください。

グッド・トイ あとは新宿区の各施設ですね、図書館とか区民センターとかそういったところにこのチラシを置かせていただくような形で準備をしているところでございます。

村山委員 そうすると、乳幼児健診のときに配る予定はないのですか。

事業課 活動支援係長の牧野です。これからその点は調整してお願いしてみます。

久塚会長 機会を広くとらえて、担当するセクションが違ったり、あるいは行政主体が違うかもしれないけど、そこをうまく住民とのネットワークと、それから組織間のネットワークがこれを通じてできればいいなというふうに考えますので、いろいろ探してみてください。

グッド・トイ ありがとうございます。

久塚会長 では、ほかの委員の方、野口さん、どうぞ。

野口委員 ボランティアを応募したときに6月と8月に20名ずつ、その方は四谷地区じゃなくてほかの地区からも応募された方が結構いると思うのです。どのぐらいの割合で

すか。

グッド・トイ 各地域から来られました。これも細かくデータを持ってきていないのですが。

野口委員 男性がどのぐらいで、それからお年寄りがどのぐらいで、若年層はどのぐらいいるのか、その応募された方ですね、そこをちょっとお聞かせください。

グッド・トイ 実は今回男性も来てくださるのをお待ちしていたのですが、全員が女性でした。ほとんどがシニア層の方ですね。あと、子育て世代の実際に自分もお子さんをお持ちの方が、これが意外と多くて6人ほどいらっしゃいました。参加の仕方を今、今後どうしようかということをお話しているところでございます。

野口委員 そうすると、そのボランティアの方というのは、四谷地区には限られないで多くの地域から来ているということですね。

グッド・トイ そうですね。

野口委員 わかりました。

グッド・トイ これは思いのほか四谷の方があまりいらっしゃらなくて、ほとんどが他地域からの方ばかりですね。

久塚会長 応募でたくさんでいっぱいになりましたと、先ほどご紹介があったのですが、例えば20人の枠で100人来て、その100人を抽せんをかけるというやり方なのですか、20人になったらもうそれで打ち切る？

グッド・トイ 実はちょうどそれぐらいで、お断りはなかったのです。

久塚会長 ああ、そうなのですか。

グッド・トイ はい、ちょうど1週間でいっぱい。

久塚会長 定数を超えた場合にはやっぱり地域性を考慮して抽せんをするのですか。年齢とか性別とかご住所などで広く、要するにいろんなところにおられるというのは、区民、いろんなところの区民の方ということプラス、ネットワークがこう広がっていくということを見ると。

グッド・トイ なるほど。

久塚会長 そういう工夫も必要かもしれませんからね。効果はちょっとわかりません。

ほかの委員の方、どうですか。はい、宇都木さん。

宇都木委員 私が勘違いしているのかもわからないのですが、これは四谷ひろばだけでやるのだったのですか。おもちゃの美術館の中でだけこの事業をやるという前提だっ

たですか。

グッド・トイ 今はおもちゃ美術館の中だけですね。ただ、ここの概要にも書いております、目的にも書いていますかね、それを今後出前とか、おもちゃのセットの貸し出しとか、そういった形でほかのところと連携しながら進めていこうという計画はございます。

宇都木委員 うん、だからそれはそうすると区内で可能なところでこういう活動をしていこうということですよ。それは今年度の計画はできましたか。

グッド・トイ 今年度申請した段階では、私どものおもちゃ美術館の中に赤ちゃん木育広場をつくってということだったのですけれども、申請のその審査をされた段階で、今後の課題ということで地域とのネットワーク、あるいはその出前事業なんかを検討が必要であるというご指摘は受けているのです。

それを踏まえてちょっと今年度すぐに出前のセットをつくってというのは、今年度中の計画はないのです。ただやはり地域の方々、地域のいろいろ福祉施設からも今度来られるということなので、そういうあたりのネットワークを今年度中につくっていく中で来年度以降どうなるかわかりませんが、こちらとしては基本的にはそういう木育というものを、うちのこの赤ちゃん木育広場のところだけではなくて、新宿区内のいろんなところに拠点をつくりまして、そちらで広めていこうということは今考えております。

ただ、おもちゃセットをただ送ればいいというだけではなかなかこれは難しいので、あわせて木育って例えばどういうことなのか、赤ちゃんに木育を伝えるというのはどういうことなのかというようなことも含めて、これはやはりボランティアの養成みたいなことが、あるいはそのリーダーの養成みたいなのが必要だなというふうには課題を感じています。

宇都木委員 うん、だからそれがボランティア養成講座でしょう。

グッド・トイ はい。

宇都木委員 それがボランティア養成講座がそういう趣旨なのでしょう。そういうボランティアの人たちがたくさんできることによって、いろんな地域でいろんなことができると、活動が広がると。

グッド・トイ そうですね、はい。

宇都木委員 そうということがボランティア養成講座の趣旨でないと、そこだけ限定していたのじゃあまり意味がない。つまり新宿区全体の事業だから、これをいろんなところに展開することによって子育て支援みたいなものがこういう格好で広がっていく、あるいは

その子どもをいろんな地域の人たちがボランティアで参加することによって地域で育てていくとかそういう、そっちの意味も実は大きな意味で、だからこそ協働事業でやる価値があることなのですよ。地域社会がともに子どもを育てていくというか、親の支援も含めてということなのだと思うのです。だから、ぜひそれはお願いしたいなと思います。

グッド・トイ はい。

宇都木委員 それから、行政の担当課の②の協働事業の質・効果のところのコメントのところで、下のほうに「評価については、赤ちゃん木育広場のボランティアの募集方法や育成について、地域ニーズや課題をとらえ団体の計画をより具体化していったほうがよかったと感じたので『4』にした」という、これは具体的にはどういうことですか。

事業課 やはりまだ初めてのことでありましたので、私たちも日本グッド・トイ委員会さんと話し合いを重ねながら行っていたのですが、やはりどうしても四谷にあるというところで四谷に偏らない、皆さんが言ってくださったように地域の偏りが極力出ないようにということと、あと今後いろいろと実施するに当たって課題が出てくるかなというところでは、こういうところを予想されるので気をつけていきたいとか、そんな感じのことをもっといろいろと出していったほうがいいんじゃないかなということでこのように書かせていただきました。

宇都木委員 地域のニーズというのは何か具体的にあるのですか。それはつまり地域的なニーズというのか、それともそうじゃなくて地域がこういう事業に対して期待するニーズというのか、そこはちょっとどういうことなのですかね。四谷だけじゃなくて早稲田のほうでもやってほしい、落合のほうでもやってほしいという地域ニーズというのはありますよね。そういうことなのか、そうじゃなくてこの木育という事業に対しての何かニーズがあるのか。この地域ニーズや課題というのはちょっと気になったものですから、そこはどういうふうな理解でこういう評価の仕方をしたのかな。

事業課 地域ニーズというところでは、一番身近である四谷からこうだんだんと広がってという意味で考えてはあったのですが、やはりおっしゃっていただいたようにそれぞれやってほしいというニーズはあって、ただその中で例えば、どうやってやったらいいのかという方法論のところ、やはりまだどうしようという立場でお互いだったので、その辺は例えば保育園のほうに声をかけてちょっと先にここをのぞいてもらう。で、経験してもらう。そういう形でいい、悪いという評価をいただいたらどうだとか、そういうところの課題をもう少し具体的に方法論としてお考えいただいたらどうだというようなところがお話

をしたものですから、その辺をちょっとこういう形で評価させていただいたというところ
でございます。

宇都木委員 わかりました。

久塚会長 竹内さん、どうぞ。

竹内委員 事業課の自己点検シートの2ページの下のほうの3番目に「自立的な事業展
開できるように、計画づくりを進めましたか」というところで、下のコメント欄に「自立
的な事業展開については、双方のかかわり合い方で迷った部分があった」という1文があ
るのですが、具体的にどんなところで、どういうふうに迷いましたか。

事業課 私のほうからお話しさせていただきたいのは、やはりこの事業を採択してい
ただいたときも、やはり木のおもちゃというテーマがやっぱり一つあったと思うのですが、
なかなかその部分については、私どもがその申しわけないですけどあまりなじんでいな
い部分もございまして、おもちゃの本質的な部分の目的とか、そういったところのやっぱ
り思いの差がちょっとございまして。

先ほどちょっと例に出ましたけど、スギコダマが私どもとしては単純に大量生産してい
るような感覚でいたのが、全部手づくりでやります、えっ、それじゃ大変じゃないとか、
そういう事細かに聞いてみると、かなりこちらが思っていた部分と違うところがあって、
ちょっとその瞬間迷ったというところが、実際にこう4月以降何回かお話し合いさせてい
ただいたときに思ったものを率直にここに書かせていただいた次第なのです。

久塚会長 では、的場さん。

的場委員 木育のその効果を筑波大学の協力により測定を行うとありますけれども、そ
れはいつごろをめどにその結果をその事業に生かすおつもりなのでしょうか。

グッド・トイ 今年度に関しましては、私どものほかの事業でも効果測定、木育の効果
測定というのを岐阜のほうでやっていただいたりとかしていますので、そのノウハウを生
かしながら、安梅先生に総合監修というような形で、事例をともかく集めようと。

つまり来ていただいたお母さん、あるいはお父さん、おじいちゃん、おばあちゃんでも、
その大人の方々がどういう例えば言葉を発していたかとか、あるいはそのサポーターの
方々に対して、ここはこうですねとかということをおっしゃられていたかというようなこ
とに関して、ともかくエピソード的に事例を集めていこうというふうに思っています。

それを安梅先生のほうにちょっと出して、提出をさせていただいて、その中から例えば
どういう効果があるのかという、これはあくまでも事例ですので、なかなかその中です

すべての事例を集めるわけにはいかないのですけれども、安梅先生にちょっと研究をしていただこうと。

で、その上で、これはまた来年度以降ということを考えているのですけれども、例えば実際に来ている方への今度数量調査ですね、アンケートを行っていったりとか、あるいはその安梅先生というのはグループインタビューという方式を使って効果測定をなさっていらっしゃるんで、例えば安梅先生のグループに来ていただいて、そのここにかかわっているお母さん、あるいはお父さん方にグループインタビューをして、その木育の効果測定をはかっていこうとかいうようなことを、また順次やっていこうというふうに今は計画しております。

的場委員 ありがとうございます。

久塚会長 なかなか難しいところですよ。

グッド・トイ はい。

久塚会長 私ども委員としては、採択して効果とか広がりと言うのだけど、数字でいろんなところから来てくださるというのは指標になったりするのだけど、その中身をどういうものとしてこうとらえるかというのは難しいので、プロの先生にそちらの立場からということ、その事前に事例として来場者の発言の部分をどういうふうにその先生が効果というふうに位置づけてされるかという。

それを最も有効にやろうと思えば、育っていったボランティアとか利用された方たちが、やはりこの場所を自分たちがお世話になるだけじゃなくて育てたいなという気持ちになっていただいて、その行政、NPO対区民というんじゃなくて、一緒にまさにやっていただければ展開はおもしろいことになるのだろうなと思いますので。

ヒアリング、プラス意見交換の時間になっていますので、交えて質問プラスご意見を発言されて結構です。

竹内委員 それに関連していいですか。今、その効果は筑波大で測定するようなお話なのですけれども、もともとこれ、スギコダマとかを使って豊かで健やかな生活にしようということでスタートしているわけなのですが、そういった効果を何らか見込んでスタートしていると思うのですが、その辺は何かどんなところに、このコダマを使ったというところに重きがあったのかというところをちょっと教えてください。

グッド・トイ そうですね。非常にやはり木の持つ温かさとか、そういったところになるかとは思いますが、すべすべした感じとかがですね、やはり日常的に子育てに

当たって割とストレスを持っているお母さんや、あと子どもを連れて初めて社会に出ようとしている方にとっての非常にいやし効果があるんじゃないかということは、非常にねらった最初のスタートではあったのですが、あと実際に今までおもちゃ美術館をやっていたり、試行で1年間やっているうちに、木のおもちゃはすごく来場者の方は興味がある。

ただ、非常に高価なので手に入りにくい、もっと遊ばせたいのだけど、どんなのがいいのかわからないとか、そういった意見を非常に多く聞きましたので、皆さんとても関心があるのだなというところにおこたえしたいというところもありました。

実際に今遊んでいただいているものの効果等も非常に肌に感じてはいるのですが、またそれは今後の課題として考えています。

久塚会長 ああ、そうですか。やっぱり子ども家庭課としても最初のところはなぜ木なのというところで終始すると思うのです。だから、ほかのものでもできるんじゃないですかというのが頭のほうにポンとあるので、やってみないとわからないという効果をいろいろ気持ちとしてわかっておられるところとすり合わせがというか、ちょっと大変だったのだろうと思うのですが、さっき事務局と話をしていて、NPOさんが書かれているところも、それから担当課の書いているところも、始めるよりも結構組織変更があった後にご苦労というよりは協力して両方足を運んだりして、それを担当課とNPOのほうは両方とも似たような表現で使っておられるので、打ち合わせというか協働みたいな形では進んだ、実態として進んだのだろうなというふうに見えるのです、すごく。

私は教えてもらって、ああ、確かにこういうところは、たまたまこう一緒になって何かをやっているというよりは、行き来をしたというのが伺われるのでよかったなと思いますけれどもね。

伊藤委員 事業目標と事業の成果についてなのですが、先ほど言われましたように年間40名のボランティアの発掘ということ、これは40名確保したという話なのですが、そこで書いてある今度は成果、成果目標は男性、シニア層、若年層のボランティアの増加ということをやっているのですが、この目標が達成されていないわけですね。そうすると。今度はこれに対する募集をかけていくのか、それともこれはもう無にしちゃって、40名集まったからいいのか、そうすると初期に上げた目標がならない。

グッド・トイ そうですね。

伊藤委員 多分こういう男性、シニア層、若年層が来てくれることによってその木育の

広がり、それから厚みが出るという判断だと思うの。それで、多分女性だけになってしまったというのはどうなのだ。今後に対してその影響というのはどうなのということと、多分この募集の仕方、従来も募集していたのは多分女性が集まってきたと思うのですよ。それと同じような募集の仕方をしちゃったのでこうなっちゃったのか、そこら辺の分析をして問題解決していかなきゃいけないと思うのですけどね。

事業課 おっしゃるとおりだと思います。

グッド・トイ おっしゃるとおりです。

事業課 ただ、ことし1年目で、今いろいろなボランティアさんも募集はかけていらっ
しゃったのですが、区報を使って募集をかけたということがことし初めてで、なかなか男
性歓迎とも書けないものですから、一斉的に普通の募集という形で書かせていただいて、
結果的にこういう形だったということには、正直おっしゃるとおりちょっと課題は残って
いると。

伊藤委員 森林体験に子どもを連れていくとして、そうすると、年の下の子、二、三歳
かな、そうすると女性、お母さんが来るのね。小学生ぐらいになると男性が来るのですよ。
だから、このゼロ、2歳ということの設定を対象にしてボランティアを募集するからなっ
ちゃうんじゃないかなという気もしないでもないのね。

グッド・トイ うん、そうですね。存じています。

事業課 おもちゃ美術館全体のボランティアもお願いしますみたいところがあると。

伊藤委員 そうそう、男性も来ちゃうの。

事業課 今、委員がおっしゃっていただいたところで、では、自分もという気持ちにな
られる。例えばシニアであっても男性の方がそういうふうになるのかもとは、今ちょっと
アドバイスいただきまして、ふと感じましたけど、募集の段階でそういうことまでちょっ
と目が行き届かなくて、やはりこの事業のサポーターという形で募集をかけたのが先ほど
言った結果になってしまったというところで、次回かけるときがあれば、ちょっとその辺
もちょっと工夫をもう一度考えさせていただきたいと思います。

久塚会長 ただ、そういうふうに対象を広げて例えば申請したとするじゃないですか、
今回狭めて申請。でも、そうすると、そんな幅広いことでいいのですかという見方も出て
きてしまいます。

対象をその範囲にしたから採択された可能性はあるので、でもまたおねだりみたいな話
が出てくるとすれば、結局できるだけ広げないでシニアが、男性が入ってくる工夫という

のを先にやってみるほうが大事ですね。と思いますね、最初こうだったので。

事業課 既に男性のボランティアの方もおもちゃ学芸員として仲間に加わっていらっしゃるので、そういった男性の方の参加、ボランティアとしての参加の仕方というのをやはり今ご助言いただいたのを本当に、全体もそうですけど、木育広場でどのような形でご参加していただくのが一番いいのかという、やはり検討事項だと思います。

久塚会長 そうですね。ただ、年齢とか性別が散らばったらいということじゃなくて、この事業、あるいはこちらのNPOなりが新宿区全体のことを見て、そういう人たちが来られることで何が生まれるというふうに考えられるのかと思っていないと、ただいろんな方が来ただけじゃなくて、その理由ですよね。どういう役割を期待するのでその人たちにも来てほしいと。

だから、簡単に言うとネットワークがどうのこうのと委員の方たちも考えていて、そういう表現になっているのだけど、実はその背景には多分こういう人たちが入ってくるとこういう効果があるだろうと、もう既に経験しておられると思うのです。それをこちらの面にうまく出せればいいんじゃないかなと思うのです。

グッド・トイ 今回この木を子育て支援の広場に取り入れたということで、目的にもありましたが、それ以上に男性のボランティアさん、今、もう前から美術館のボランティアをしている方が本気になってくださったなという実感がすごくあるのです。

例えばこれをつくるグループのリーダーも男性の方がもう手を挙げてやりますということで、赤ちゃんに実際にかかわるのは非常にちょっと苦手だけれども、こういった周りの環境を整えとか、木のおもちゃの修理をすとか、そういったことで今まであまり目を向いてくれなかった男性の人たちが本気になってくださった。

それと、オープンしてまだ間もないですけども、お父さんの来館が非常にふえたというのは実感しています。これもまだちょっとデータ化していませんけれども。しかも、パパが1人で連れてくるのです、赤ちゃんを。だから、非常に男の人が利用しやすいような環境づくりはうまくいっているんじゃないかなというような予想はしております。

久塚会長 だから、そこが大事で、この事業はこういうことなのだけれども、男性の方が、单身かもしれないが、配偶者がいるかどうかは別として、もし妻がいるとして、家で女性に自由な時間をつくるという効果まであるのですよ。だから、そこだけで見るんじゃなくて、男性がこうすることによって女性の自己実現というようなことだったり、自由な時間を使えるというところまで展開していく芽を持っているのだと私は思いますけれども

ね。

グッド・トイ そういった意味でもこうやって少しずつ時間がかかるのではないかとはいえますけれども、すそ野を広げるという意味では、これから意識しながら取り組んでいきたいところでございます。

宇都木委員 結構70歳代の男の人というのは、自分たちの生まれたというか、育ってきた体験を含めて結構僕の知っている範囲でも学童保育というか、学校が終わった後の学童クラブで同じようなことをやっているのです、竹とんぼをつくってやったり。そういうのってその人にとっては先生になるからものすごく生きがいになるの。だから、本来のボランティアになってくるから、場合によってはこういう子どもと木を使ったりおもちゃを使ったりして一緒に子どもを遊ぶことを教えてくれませんかという募集もあると思うのです。

僕が着目しているのは、要するに子育て支援を幅広く大勢の人たちが、いろんな階層がかかわって、そういう何かいろんなものを使って子育て支援が地域に広がっていくということが重要なことなので、この事業の中でぜひそこら辺を目的意識を持って考えてもらったらいいなと思います。

先ほどもお話がありましたけど、保育園と共催で何かやってみたり、学童クラブとやってみたり、保育園だとか幼稚園だとかというのは可能性があるわけで、そのことによって孤立しているお母さんたちを支援していく、つながりができるというか、お母さんたちのつながりができるという、これも大事なことだと思うので。

事業課 そうですね、保護者の方だけの支援じゃなくて、やはりボランティアもその入っていただいたことでやはり自己実現というか。そういうので、双方でやはり高めていくというのは本当にいいことだと思いますね。

宇都木委員 だから、それは意味がある事業だから。

グッド・トイ そうですね。

宇都木委員 うん、それは専門家だけが来てワアワアやって、ああ、楽しかったねではなくて、地域課題として子育て支援というのを考えていく。そのさまざまなやり方はあったとしても、そこが広がっていくということが区としては重要な支援ですよ。子育て支援、子育て支援と言ったってできないので、こういうものを通じて拡大していく、いろんな人たちが参加していくという、そういう広げ方が必要なんじゃないかなと思いますね。そこに注目して私はいるのですが、ぜひ拡大していただきたいなと思いますね。

久塚会長 村山さん、どうですか、手が挙がっていたので。

村山委員 では、二つほど、土日祝日の有料化の反応はいかがですか。

グッド・トイ 今まで有料だったのが平日無料になったということで、無料になったから来れましたと言う方はよく本当におられますね。今まで来たかったけど来れなかったのが来れるようになりましたという、喜んでいらっしゃる声は非常に多く聞きます。

間違っって土・日に来る人もいましたが、そこはご理解いただけるような説明の紙をお見せしたり、お話をすることでご理解、ご納得はいただけておりますね。

むしろ土・日、パパに見せたいから、あえてお金払うけど来ましたと言う方もいらっしゃるぐらいです。

久塚会長 ですから、有料のところを条件つけて無料にしたという流れを理解してもらえるとただ、住み分けみたいになっちゃうと少しきついというか、相手にとっては何でという話に。そもそもこれを区民の方たちも利用して、そのいただいたお金がいろいろなことに生きているのですよと。だけど、ここについては無料にするという説明がうまくできればいいんじゃないでしょうかね。

村山委員 それで、その有料でためたお金は運営費に充てるのか、それでもなければ何らかの形で利用者へ還元をする予定があるのかどうかという、その辺はどうですか。

グッド・トイ 区民の方かどうかという判断はわからないのです、特に土日祝日の場合には。ですので、区民の方が何人来て、その入館料を赤ちゃん木育広場にとすることはちょっと実質的には難しいところがあります。

ただ、もちろんそのいただいた入館料に関しましては、当然館内の運営等いろんなところを含めて使わせていただいていますので。だから、土・日、休日に関しては、もう本当に区民かどうかというところはチェックをしていないのでわからないというのが現実ですね。

村山委員 何らかの形で利用者へ還元するというのは今のところ全然考えていない？

グッド・トイ ないですね、はい。

久塚会長 だから、運営を楽しいところだねというふうにしていくことで、お金を使っただけで還元しているというふうにしていくしかないですね。

この事業の中に入館料の収入を入れちゃうというのは話が不思議なことになっていくので、いろんなところから来てくださっているの、そこはよく考えなきゃいけないですね。

無料になっているというのは、まさにこの事業で新宿区の中でやっているということと

の意味合いで、新宿区から一緒にこうやりましようとなっているわけだから。だから、やっぱり広がりを持ってくるとなると、新宿区、新宿と言わないような形の必要性もあるのだろうと思いますけれどもね。

すみません、残り時間あと5分少々になりましたけれども、意見交換、どうぞ質問を含めてありましたら。

村山委員 新聞で紹介されてだいぶ反響がありましたか。

グッド・トイ 具体的に新聞を見たから来ましたというのは、声は聞いていません。むしろ今、ツイッターで口コミで聞いて来ましたと言う方が非常に多いですね。

久塚会長 なるほどね。それは、どういうルートでこれを知ったのですかというのは聞いているのですよね。

グッド・トイ 特段全員にアンケートという形ではとっていませんが、来た方とはほとんどお話をしていますので、ボランティアさんたちが。どこで知りましたかというようなお話は聞いております。

久塚会長 なるほどね。先ほどのニーズ調査じゃないけれども、入り口がどこにあるのかというのはね。意外と新聞かもしれない。

グッド・トイ はい。今のところ区民の方は、ほとんどが区報を見て来ましたという方がもうほとんどですね。

伊藤委員 まだ始まって5日なのでそんなにわからないと思うのですが、リピートで来てくれている人は、顔を覚えていないからわからないとは思うのだけど、どんな感じの人かね。

グッド・トイ 多いですね。

伊藤委員 多い、やはりね。

グッド・トイ はい。顔を覚えていますので、こちら側も。すでに2回目ですと言う方が、また別のお友達を連れてきてくださるというパターンが多いですね。

野口委員 赤ちゃん木育広場は拠点型ですが、新宿区全域ということになりますと、各地域センター、児童館、児童公園などでやるとか、何か全域に展開できるような将来構想は持っていますか。

グッド・トイ おもちゃのセットをつくって、私たちこの事業とは別に木育キャラバンというセットも持っていたりとかやっております。それはちょっと全国展開しているのですけれども。そのセットをつくることはそんなに難しいことじゃないところはあるのです。

木育という木のおもちゃを使って、それも単に木のおもちゃで遊べばいいという部分ももちろんあるのですけれども、そこからやっぱり木のことを知ってもらおうとか、木のよさをきちんと伝えられる人というのがやっぱりすごく大切なので、今回サポーターの来ていただいている方々も実際に入っていく中で、やっぱり木のよさを体験的にこう学ばれているので、そういう方々をこう中心にして、来年度以降できればと思っていますが、具体的には、どこでやりますというのはなかなか言えないのです。

野口委員 事業の拡大も考えているということですか。

グッド・トイ そうですね、はい。そういう意味ではいろんなところにおもちゃを、セットと人を送って、そこでこう木育のよさを伝えていくみたいな活動ができればというふうには思っています。

久塚会長 よろしいですか。では、これでヒアリング・意見交換を終わらせていただきます。では、お忙しいときにどうもありがとうございました。

グッド・トイ ありがとうございました。

事業課 ありがとうございました。

(NPO法人日本グッド・トイ委員会・子ども家庭課担当職員退席)

(社会福祉法人二葉保育園・子ども総合センター担当職員着席)

※社会福祉法人二葉保育園の発言については「二葉保育園」と標記します。

事務局 では、続きまして次の事業のヒアリングに入っていただきたいと思います。

事業名が家庭訪問型子育てボランティア推進事業で、実施者のほうが社会福祉法人二葉保育園と、あと事業課が子ども総合センターになります。

初めに二葉保育園から簡単に5分程度で事業の説明をお願いいたします。

二葉保育園 皆さん、こんにちは。社会福祉法人二葉保育園の大矢と申します。本日はよろしく願いいたします。

私のほうから簡単に現在、本年度に入りまして行われております協働事業提案の事業についてご説明させていただきたいと思います。机上のほうに資料を配付させていただきました。

まず、こちらピンクのものが本年度4月に作成いたしました「ホームスタート二葉」のリーフレット、こちらが利用者さんに配布しているものになっております。

あと、写真がついた紙ですね。こちらがきょうご説明します実施状況の報告書になります。

では、こちらに沿って説明をさせていただきたいと思います。まず、初めに今年度入りまして4月15日に四谷地域センターで事業の説明会を開催いたしました。このときには大正大学の教授で、またホームスタートジャパンの代表でいらっしゃいます西郷先生をお招きいたしまして、実際のホームスタートについての活動の様子ですとか、あと日本に広まった経緯ですとか、そういったホームスタート全般についてのお話をさせていただきました。

出席者は43名となっております、もちろん区民の方も多く参加いただいたのですが、それ以外にこれからホームスタートを始めたいという他自治体の千葉県ですとか、あと品川区ですとか、さまざまな地域の子育て支援関係者の方にも同席をいただきました。

また、子ども総合センターの長谷さんですとか、保健センターの保健師さんにもご参加いただきまして、事業についての周知を図る機会となりました。

その後、ホームビジターの養成講座というものを開催いたしました。5月13日から7月1日までの計8日間、こちら1日5時間で計40時間必須となっております、こちらを開催いたしました。受講者数は15名、ちょうど定員が16名だったので、定員ほばいっぱいという形で受けていただきました。うち13名が無事に全行程を修了いたしまして、修了書をお渡ししております。2名はどうしてもご家庭のご事情がつかずにご欠席を1日されたということで、仮修了という形になっております。

参加された方のお写真がそちらに載っているのですが、ほとんどが新宿区民の方なのですが、1名お隣の渋谷区の方のご参加と、あとはうちの非常勤の職員が参加をしております。

特徴といたしまして、これから子育て支援を初めて行いたいという方の申し込みがあったのが、ちょっとほかの養成講座とは違うところかなというふうに思います。

それで、利用状況につきましてですが、きのう現在、問い合わせのほうは14件ございました。そのうち申し込みになられて初回の訪問が済んだ件数がただいま10件となっております。その10件のうち訪問終了した件数が現在4件となっております。利用地域は、新宿区の全域にわたって申し込みがあるといったような状況になっております。

養成講座が修了いたしまして、それぞれ皆さん活動をしていらっしゃるのですが、先月から月に1回ビジター会議というものを開催いたしまして、こちらは近況報告だけではな

くフォローアップ研修も兼ねておりますので、今後回が進むに連れて離乳食の講習を受けたりですとか、あとは看護師に来ていただいて乳幼児の健康管理ですとか、そういった専門的な知識をつける機会にもなっていければというふうに思っております。

続いて、新オーガナイザーの養成講座に2名職員が参加いたしました。こちらは現在私と谷川2名がオーガナイザーとして活動しているのですが、今後事業の展開を考えたときにやはり組織の中でオーガナイザーができる人間がいたほうがいいだろうということで、ホームスタートジャパンが行っております年1回の研修に先月2名が参加いたしました。

そして、来月、11月なのですが、オーガナイザーのスキルアップ研修も、こちらホームスタートジャパンが主催でございます、私と谷川の2名が参加する予定でおります。

そのほか事業の啓発活動といたしまして、報告会の開催、こちらは3月に予定をしております。その他、イベントや説明会等の出展とございますが、現在予定しておりますのは新宿区の子ども家庭支援センターのセンターまつりですとか、新宿子育てメッセ、そういった乳幼児さんがたくさん集まるイベントにブースを持ちまして宣伝をする予定でおります。

また、保健センターですとか幼稚園、保育園に現在リーフレットのほうを配布する準備をしております。

そして、最後に運営委員会を設置いたしました。このホームスタートをやるにあたりまして、組織を守るためということで運営委員の設置が義務づけられております。メンバーといたしましては下記のとおりなのですが、福富先生は現在新宿区の次世代育成支援部会の副会長をされていらっしゃいます。養成講座のときにも講師としてお招きいたしました。また、地域活動の専門家ということで社協の丸山さんにもお願いしております。また、助産師の方として、もともとうちのひろばを使っていて、現在うちのひろばのほうでマタニティですとか、赤ちゃんのサロンをいらっしゃいます助産師にお願いをしております。そのほか担当課として長谷さん、そしてうちの委員長の都留とオーガナイザー2名が運営委員として活動の組織の基盤づくりのほうにかかわらせていただいております。

雑駁ではございましたが、現在の近況報告として述べさせていただきました。

久塚会長 はい。では、センターさんの補足がありましたら。

事業課 とにかくこの養成されたビジターさんたちがもうすぐ実践に移せるという非常にいいところがありまして、というところで私たちは非常に虐待の予防につなげていきたいということで、子ども総合センター側は思っております、非常に今いい状況で連絡を

取り合いながら進めているところです。

久塚会長 はい。今から各委員が質問することになりますけれども、質問の趣旨がわからなかったら遠慮しないで聞いてくださいね。その後、しばらくたって意見交換というか、アドバイスだったり、質問プラス意見交換みたいな時間になりますので。

では、どなたからでも結構です。

伊藤委員 今言われた中でボランティアさんの集まりや何かはいいですということと、支援を期待する人たちも多いですという話なのですけれども、ここで一つ自己点検シートに書いてある本当に自分たちが、団体さんが思っていた子育て支援拠点に出向くことができな親たちへの支援、これができていないということを問題点として挙げているのですが、それで今後事業目的に沿った支援ができるように事業内容を明確にしていく必要があると書いてあるのですが、具体的にどんなことをすればいいのかと考えていらっしゃいますか。

二葉保育園 はい、ありがとうございます。現在、申し込み状況といたしまして、保育園に通われている方ですとか、シングルマザーの方ですとか、既にどこかの機関に携わってはいるのだけれども、やはり土・日に話し相手が欲しいとか、子どもさんのしつけがわからないとか、あとはひろばを利用しているのだけれども、そこでもやはりなかなか孤立を感じてしまうといった方のお申し込みが多かったです。

ここ10月に入ってからちょっと変化が出てきたのが、保健センターの乳幼児健診で、保健師さんから紹介されて来ましたというケースですとか、あと保健師さんからご連絡をいただいて、こういう方がいるのですけれども、ホームスタートの制度を利用できるかといった問い合わせがありまして、やはり保健センターというのは健診で必ず乳幼児が集まる場所でもありますので、保健センターの全戸訪問の際に1家庭ずつにリーフレットをお渡しいただくような配慮をいただければ、そのような家庭に出向くことができるかなというふうに考えております。

伊藤委員 ありがとうございます。

久塚会長 では、村山さん。

村山委員 二つほどお伺いしたいのですけれども、現時点で7件の申し込みがあるかと思うのですが、実際に問い合わせ等の相談があったのがどのぐらいですか。

二葉保育園 問い合わせがあったのが14件で、そのうち申し込みが10件という形で、問い合わせはあったのだけれども、まだちょっと利用は考えたいわという方が4名いらっ

しゃるといふ。

村山委員 それで、実際に訪問された7件の場合は、二葉保育園が最初に訪問するのですか。

二葉保育園 そうです、オーガナイザーが初回に行きましてニーズを確認いたします。チェックリストとあるのですけれども、利用者にチェックをしていただくのです。実際にどういうところが必要かというものを選んでいただいて、それをもとにこちらで支援の方向性を考えていくという流れになっております。

村山委員 それで、どのボランティアさんが会うかどうか決めてということ。

二葉保育園 そうですね、はい。

村山委員 それからもう一つ、二つ目は一番深刻な外国籍の方、多分この方が地域でもって埋もれて、隣近所の方にも言葉が通じなくてご相談できないという方がいるのですが、そういう方について今のところ全然問い合わせはない？

二葉保育園 おっしゃるとおりで大久保地域なんかは本当に外国籍の方が多数いらっしゃいますので、リーフレットもいろんな言葉でできたらいいなというふうに将来的には思っております。

また、ビジターさんの中にも英会話ができる方などもいらっしゃいますので、ご要望があればそういった家庭にもぜひ出向いていきたいなというふうに思っております。

村山委員 そうですか。

二葉保育園 はい。

久塚会長 そうですね、やっぱり孤立どうこうというのは、言葉とか国籍とかで出てくることもあるし、それからその本人たち、外国籍の方たちは決して孤立しているつもりじゃないんだけど、日本の、あるいは新宿区民のほうが孤立させているようなところもあるかもしれないので、うまいぐあいに何かやれば違ったことにも展開できるかもしれないですね。

二葉保育園 そうですね、はい。

久塚会長 では、ほかの委員。

竹内委員 子ども総合センターからの自己点検シートなのですけれども、4ページ目に今、「訪問期間が2～3カ月で月に4、5回程度継続的に訪問する計画」とあるのですが、この「4、5回で本当に効果が上がるか、検証が必要である」というふうに書いているのですが、この辺をどのようにお考えなのか。

それと、もう一つは二葉保育園の自己点検シートですが、後ろのほうで紹介ケースの中に長期的な支援を望まれるものや何かがあったというお話なのですけれども、それに対してはどのように対応される予定なのか。

事業課 まず今のご質問の回数なのですが、なかなかこういった例えば虐待のケースとかいろいろな悩みを持った方というのは、その回数で解決が決められるものではないなという部分もあると思うのです。

ただ、ある程度の始まりから終わりまでというのは目標を持っていかなければいけませんので、その中である程度の期間をホームスタートのジャパンさんのほうが設定としてはあると。ただ、結果としてきちんとその解決に至って、その受けられた方は非常に満足いく結果であったということが三、四回で終わるということであれば、それはそれでいいと思うのです。

ただ、それが実施できなかつた場合、その数で決められるのかということ言うと、今実施したばかりですので、まだその結果としてはもう少し、7月からの開始になっているのです。ですので、もう少しそこについては様子を見ていきたいなというふうに感じるのと、あとやっぱりその現況ですね。こちらのほうでも収集しながら、きちんとお客様の満足がきちんと得られているのかというので、やっぱりできれば解決に結びつけていきたいというのは最終的にありますので、そういったところの検証は今後必要だなということで、こちらのほうでは課題として今現在は持っているところです。

竹内委員 そうですね、状況によってやっぱり違いが出てきますよね。

事業課 そうですね、そうだと思います。

久塚会長 よろしいですか。

竹内委員 はい。

久塚会長 野口さん。

野口委員 ホームビジターの応募ですが、これについては面接とか選考、資格とかそういったことは、どんなことを考慮して人選されたのですか。

二葉保育園 養成講座の受講は特に人選という形で選んではないのです。申し込んでいただければ、活動に賛同してくださるすとか、全日程参加できることを条件にどなたでも窓口を設けているのです。最終日に個別面談というのがありまして、最終的な意思の確認ですとか、ご家族の了承がとれていますかとか、ルールを守れますかとか、そういった確認はいたしました。

野口委員 守秘義務に関してはどうですか。

二葉保育園 そうですね、守秘義務のこともあります。その時点でご了承いただいて、修了書を発行するのですが、やはり中にはまだ1人でちょっと行くにはこちらも不安かなという方も、ご自身もやっぱりまだ不安ですと言う方もいらっしゃるので、そういう方についてはいきなり家庭訪問ではなくて、ひろばのボランティアとして登録をまずいただきまして、活動いただくようにしております。

野口委員 はい、わかりました。

久塚会長 相互点検シートというのがありましてですね、その中で改善に向けた取り組みの箇所に「関係機関への周知を徹底し、誤った情報が伝わらないよう注意したい」と書かれているのですが、何か具体的にあったのか、事前に自分たちはそういうことに心がけているということなのでしょうか。

二葉保育園 実際にちょっとあった話なのですが、保健センターで紹介されたケースで、お子さんが多い方なのでぜひ支援の手を入れたいと保健師さんからご紹介があったのですが、このホームスタートがお母さんとビジターの関係を構築するものなのですが、その保健師とビジターと一緒にそのお子さんを見るのではだめなのですかというお問い合わせがあって、それではちょっと意味が変わってきてしまうので、ちょっとそれは違いますねというお話を。

なので、まだそこがちょっと周知がされていなかったなという経験があったものですか。

久塚会長 見たら、あまり気かけなくて、何かやってもらえるみたいに見えるところもありますのでね。

二葉保育園 そうですね、はい。

久塚会長 ほかの委員の方はどうですか。宇都木委員、お願いします。

宇都木委員 まだ途中なので評価が定まらないかもしれませんが、皆さんが考えているというか、事業を行うに当たって想定していたであろうことからすると、現時点で10件の申し込みというのは少ないのですか、多いのですか。

二葉保育園 団体としては多いほうかなと思っています。年間の目標を30家庭というふうに定めたのです。7月の末に区報に出まして、そこから募集を開始して1カ月の段階で7件に行きまして、9月に入ってから10件に到達したということで、既に3分の1を終えたというのは状況としては多いほうかなというふうに認識いたしました。

宇都木委員 いや、どの程度のこの支援の程度かわからないのですが、ここで言う事業目的の①から③まで書いてある、特にこの虐待防止だとか、地域住民が子育て支援に参加するだとか、地域活性化するかだとかいう、こういうことを実現することによってさまざまな子育てに苦しむ、あるいは問題を抱える人たちを解決していこうということなのだと思うのです。

二葉保育園 はい。

宇都木委員 これはこういう表現がいいかわかりませんが、もしまづかったら指摘してください。新宿区にはそういう対象となるような人たちというのはどのぐらいいるだろうなという想定でやっていますか。

二葉保育園 もう数を上げたらきっと全家庭に入ったらいいくらいだと私は思うのです。やっぱりふだんこちらでも週に1回くらいひろばを利用して、暴れた子のお母さんはご実家も近かったり、一時保育を使われていたり、もう満たされた状況かなと思っていたらこう申し込みがあって、よくよく話を聞くと、やはりおうちだとどうしても煮詰まってしまうとか、こういうところに来てもやっぱり解決されない悩みがあるというふうにおっしゃるのです。

なので、やはりお話を聞いていくと皆さんだれかに悩みを聞いてほしいとか、だれかのサポートがあったらそれを使いたいといった、だれでも起こり得ることと言ってはおかしいかもしれませんが、そういったニーズはかなり多くあるのではないのかなというふうに思います。

宇都木委員 だれでもが悩みを持っている。どこの家庭でもそれぞれの事情があって、大なり小なりはもっとあると思うのです。しかし、この皆さんのところを利用しなければならぬ人たちというのはかなりその悩みが深いというか、大きいというか、課題を抱えちゃっているというか、そういう人たちが対象になる、対象にしなければいけない、より大きく悩まないように、虐待につながらないようにする手前でどうやってとめていくかという、そういうことなのだと思うのです、具体的には。

だから、それを今のペースで行くとどのくらい伸びていくのかわかりませんが、徹底ができないからこの程度でとまっているのか、あるいはもっとふえてしかるべきだなというふうに皆さん思っているのか、そこの辺はどうですか。

二葉保育園 実際に訪問してみまして、子どもが泣きやまずお巡りさんが来てしまったという家庭があり、お母さんもお仕事をされていて、それから保育園から帰ってきてかなり

疲れていて、その子どもの泣かせっ放しというのもあったのですが、お巡りさんが来て、子ども成長もちょっと小さかったのですが、訪問しているうちにご自分の考えとか思いをすべて出してくださって、ああ、これではいけないというような形にだんだんなっていくのです。

それで、ビジターが訪問したときに公園に連れて行ってくださいとか、あと買い物をしたいのでこういうところへ連れて行ってほしいということで、こう寄り添いながらお話を聞いていくうちに心が開けてくるようなのです。

それで、来てもらってホッとしたとか、それから待ち遠しかったとかいうお話が実際にございます。そういうようなことから、だれでも虐待寸前ではないけれども、たたいてしまったりとか、イライラ感が募ったりとかいうのがあるので、そういう家庭に未然防止として入ることによっておうちの中がわかるのですね。目の当たりにできるので、虐待防止というか、未然にそういう形で訪問していれば防げるのではないかなというところなんです。

宇都木委員 登録しているビジターさんが13名ですよ。それはもっともっとたくさんいてほしいなというふうに思っているのでしょうか、今のお話で言えば。

二葉保育園 はい。

宇都木委員 だから、この人たちを養成し、たくさんの人たちが支援ができる態勢をつくっていくことによって地域社会で少しずつでも応援する場が広がっていくという、こういうことだと思うので、そうするともうちょっとこの人たちをふやしていくために、今後やらなきゃならない課題も出てきますよね。

それから、同時にこういうサービスというのは画一的なサービスじゃ困るわけですよ。だから、ケース・バイ・ケースでそういう対応ができなきゃいけない。ある程度の水準があって、ここから上だと、ここから下はこぼれちゃったらそれはしょうがないのだみたいなところでは、この支援の意味がないので、そこはだから行政だけではできないところを皆さんと協働事業としてやることに意味があるので、そのところはぜひそういう支援する人たちをたくさんふやしてもらって、地域社会にそういうことがごく当然のようにみんなが支え合える、そういう仕組みというか、風土というか、市民性というか、そういうのが生まれてくるようなものにつながっていったらいいですねと思うのです。

二葉保育園 ああ、おっしゃるとおりですね。

宇都木委員 だから、そういう意味ではこの皆さん方がやられていることというのは行政だけではできない活動なので、これは少しもっと広めていくような何か考えたらいいな

というふうに私は思うのです。

だから、どうすれば広まっていくかですね。つまり支援する側の人たちも広まっていく。それから、そういうことは、心配があったらこういう人たちがいるから相談しなさいよということをいつも何かで投げかけていってやるということも大切ですよね、訴え続けるというか、呼びかけていってやるということ。

だから、そのこのところをもう少しふやすために、あるいは厚くしていくためにどうするかということ、ここからの先、考えていってほしいなというふうに思うのです。ここに報告書をいただいていますけど、まだ始まったばかりだからそんな評価できないのでしょうけど、ここで事業の目的としているここにどれだけ近づけるかというのをこの1年、2年の間にきっちりつくり上げたいと思うのです。

だから、13名の登録者、僕ちょっと意外だと思ったのは、子育て未経験者もいるのですか。

二葉保育園 はい。ベビーシッターのお仕事をされていらっしゃる、未婚ではあるのですが、ご自身としてのお子さんは育てていないけれども、長年お子さんを育てた、一緒に育ててきたという方です。

宇都木委員 ああ、接しているから。

事象者 はい。

久塚会長 宇都木委員のご質問もちょっと私の次の発言と似ているかもしれないのだけど、ホームビジター養成講座40時間、それは長いか、短いかは別として修了になりますよね。修了された方はみんな、皆さんご立派な方だと思うのだけど、変ですが、その二葉のほうから見てホームスタートを利用で、この人は行ってもらわないほうがいいんじゃないかなみたいなのはあるのですか。それとも、ないと言われると本当となるし、あると言ったら、それはどうするのということになるのですけど。

二葉保育園 先ほど申し上げたように正直やっぱり全員が全員安心して送り出せる方ではないのは確かです。

それを見きわめるための養成講座でもあったのですが、その時点でやっぱりちょっと難しいかなという方はこちらもまだご紹介はしていません。なので、こちらの目の届くひろば内のお母様とのかかわりとか、そこで経験を積んでから。

久塚会長 なるほど。

宇都木委員 今の社会状況から言うと特にお母さんたち、これだけ派遣が多いと仕事が

できない。すぐ切られてしまうというか、例えば子どもが熱を出して保育園に迎えに来てくださいなんていうのに、これから寒くなるから月に2回も3回も呼び出しをくらったら、もう、あんた、違う人と変えてくれということになるのです。

そうすると、違う人と変えてくれと言ったら、その人はもう首ということですから、仕事がなくなるわけですね、そのときの。

だから、そういう人たちも含めてサポーター養成講座というのをやっているから、そういうところと施設と皆さん方のところをミックスしたような格好で広めていって、それで子育て支援を厚くしていく、重い問題を持っている人たちも包含していくというふうな方向性がもう少し出ていくと、みんなが利用しやすくなるんじゃないかと思うのです。

だから、保育園に行って、保育園をやっている人たちと皆さんのところが、父母と、お母さん、お父さん方と話し合っ、て、こういうことをみんな一緒にやっていきましょう、何かあったら連絡くださいよというような広め方、市民運動ってそういうことですね。

問題をより解決していこうと、市民の力で解決していこうということですから、こういう方向が一緒に出てくると、問題をつかまえるというか、そういう人たちをつかまえることで、より広がっていくんじゃないかと思うのですけれどもね。

私の所属している団体がサポートしてNPOをつくったのが埼玉でやっていますけど、大変喜ばれていますよ。やっぱりサポーターを保育園ごとにとか広場ごとにあって親と子どもがしょっちゅう交流していて、Aさんは4番のサポーターと5番のサポーターが面倒見るとか言って、そうすると安心でしょう。やっていますけど。

そういう関係性を持つことでその虐待の問題が未然に把握できたりするので、だから何かもうちょっとこう工夫をしてみて、要するに発見を、私を助けてくださいと言う人たちというのはものすごく勇気があるし、またそういう人たちというのはそんなに重症じゃないのかもしれない。

そういうことを言えない人たちをどうそこにつなげていくかというのが、これ大事なことだと思うのです。社会的に必要なことなので、そこをつながるようなそういう活動に何かうまくうまく皆さんのところで広げていってもらえれば、しかも何かもういろんなことを経験されているわけでしょうから。

二葉保育園 はい。

久塚会長 いや、こういうホームスタート二葉の説明という、いきなり私、虐待しているから助けてとか書けませんものね、ここに。

二葉保育園 書けません。

久塚会長 だから、それを発見するためにソフトに書いているわけですよね。

二葉保育園 そうですね。

久塚会長 そうすると、勘違いでヘルパーさんと間違っただけで夕食つくってくれるのですかみたいな話になりやすいですよね。だから、すそ野を広げて書けば書くほどそうなるのだけれども、宇都木委員が言ったみたいにねらうところはまさにそういうところだと言うのであれば、宇都木委員が言われたようにそういう方たちをどうやってこちらのほうからお声かけする人として発見していくのかと言うと、二葉の力では足りないのです。そういうことを、施設でサポートしているような人たちと連携をすることによって、今度あなたたちが重点的に力を発揮できる場所というのは、そこに力点を置くことができると思うのです。

だから、お声かけから対応までとやると、どうしても大変だと思うので、見つけたらとニーズの掘り出しというのは、ほかのところとジョイントするとかいろんな工夫があると思うのです。

二葉保育園 そうですね。

久塚会長 ええ、これを見たら、やっぱり子育てで疲れた人が何かやってくれるのかなみたいなことはあるのでしょうか。何かやってくれるというか、お散歩までこう書いているじゃないですか、一緒にお話を聞いてくれる。

ついでに買い物だとかお掃除とかいうようなふうを考えちゃう人もいるかもしれません。

二葉保育園 でも、それもいいのです、一緒にやるので。

久塚会長 ええ、一緒にやればですね。

二葉保育園 はい。

久塚会長 ところが、やってほしいので私、昼寝というのが出てくるとちょっと大変ですよ。

二葉保育園 そうですね。

久塚会長 だから、介護保険の制度と一緒に、残っている能力だとか、本人が疲れ切っているけれども、できるだけ主体的にしてくださって、その中から力をもう一度つけていて、しかもこの小さいところに閉鎖されないようにということの効果というのは。

だから、やっぱりいいことをやっているのです、もう二葉自身が先ほど言ったようにほかのところからもらうような情報も利用しながらですね。

二葉保育園 そうですね。

久塚会長 いきなりは難しいので、ネットワークを何か利用できればいいなとは思うのですがね。

二葉保育園 はい。

宇都木委員 子育て支援のNPOなんかもたくさん新宿区にもあるのでしょうか、そういうところと話し合いを持つとか、何か。

二葉保育園 ああ、そうですね。

宇都木委員 行政に相談する人たちというのは、もしかしたら手伝わなくていいかもしれないのだ、自覚しているのだから。私、子どもを殴っちゃいそうだから何とかしてくれませんかなんて言う人は行政へ相談に来る可能性は低い。だから、そういうところに訴えるという人たちというのは、相当やっぱり自分たちも何かいろいろ考えて、さまざまなことを解決のために努力している人たちだと思うのだけど、そういうふうに見えないところで新聞に出てくるようないじめがあったり、いつの間にか子どもに食事を与えさせないで死んじゃったりとか、本当にひどい話ですよ。だから、我々は我々として普通の生活が営める範囲というのは多分大なり小なりみんな持っているのだから、そこを子育て支援として学校などとのつながりだとかいろいろあるのでしょうけど、考えてもらったらいなというふうに思うのです。なかなか難しいですけど、あのやり方というのは、あのサポーターの保育園と一緒にやっているサポーターのというのは、本当にお母さんたち助かると思います。

いろいろなことが原因で子どもをいじめちゃったり、子育てに悩んじゃったりという人たちがたくさんいるので、だから少しでもそういう社会不安を応援することによって、社会的不安をなくしていくという、そういうことをせつかくここまで来たのですからやっていただきたいなと思いますけどね。

二葉保育園 はい。

伊藤委員 相談する人、女性だけとは限っていないと思うのだけど、男性からの相談というのはありますか。

二葉保育園 いえ、現時点ではないです。その方のお父様からご相談があつて、娘に電話させますとか、そういったことはありましたけれども、ビジターも女性しか今養成はしていないので、父子家庭の方の相談はないです。

将来的にはそういう父子家庭の支援というのもしていきたいなとは思っています。

伊藤委員 現状として父子家庭に対しては女性でいいのかどうかという問題については

どう考えていますか。

二葉保育園 やはり異性になってくるとちょっと難しい問題なども出てくるので、そこは慎重に行かなければいけないと思います。ホームスタート実施のところでも父子家庭というのはないですね。

伊藤委員 結構あるのでしょうか、父子家庭って、新宿区で。

事業課 私、きのうちょっと対応したケースがございまして、実はその外国籍の大久保地区のあたりは両親がおりまして、片方、お母さんが外国籍の方で、日本語が話せなく、お父さんが日本人だと、お父さんのほうがやっぱりご相談に来るわけです。お母さんがなかなかその養育能力がないというような状況がありまして、やっぱりそういった場合に、では、どのような対応をしていくかということ、やっぱり男性職員が今担当になっているのです。

当然家に訪問したりとか、そういうこともありまして、やっぱり男性職員の必要性とか、特に大久保地区のあたりはそういう形がすごく多いのです。お父さんのほうが相談に来るというのがパターンとしてありまして、ですのでそこをこうやっぱり新宿区全域をカバーしていくということを考えた場合に、男性のホームジッターさんの養成とか、1人ないし2人は必要なかなというふうに考える部分もあります。

ただ、現在は女性のジッターさんばかりでいるのですけれども、今後の課題としてきちんと考えていったほうがいいかなというふうには感じています。

伊藤委員 この事業がもっと知られていくということと、そういう人、地域に対応するような態勢が必要になるのは確かだと思います。

事業課 そうですね、はい。

伊藤委員 それは今から考えておこなきゃいけない部分という認識はあるのね。

事業課 はい。

村山委員 子ども総合センターにお聞きしたいのですが、3カ月過ぎた後、それまで問題が解決すればいいですけれども、3カ月終わった後、まだ問題が解決しない場合のことはセンターとして何か考えていますか。延長ができるのですか。

事業課 今のこの形というのは資格とかそれを持たない方がボランティアとして、ホームジッターとしているわけなのです。それが今のこの事業の非常にいいところで、相談しやすさがあると言えます。

その中でやっぱり専門家のところに、では、三、四回終わった後で、やっぱり非常に大

きな課題を抱えていたということがわかった場合には、こちらのほうの相談のほうにつなげていこうということで考えております。

このホームスタート事業のホームビジター会議がございまして、そちらの内容も相談チームのほうに全部報告はしているのです。それで、今の段階ではこういう形の対応をしていますけれども、今後出てきた場合に連携していきましょねということはセンターの中では話についてはあります。ですので。

村山委員 ホームスタートの利用は3カ月でおしまいですよ。

事業課 そうですね。ただ、それで済む場合も、今のこの7人の中では大体4回から6回ぐらいで終了している状況が今の段階ではすべてであるというところですので、今後そういうのは当然こちらのほうでも頭に置きながら、今どんな状況ということは聞きながら進めています。

村山委員 だから、事例が出たときに考えるということ。

事業課 そうですね、ええ。ですので、今のよさはよさでこう生かしていきたいなというふうに考えていますので、そのやっぱり言えない人がいて、言えない人は言ってこないのだと。言ってきている人はもう自分から声に出して相談できる人であって、やっぱり言えない人たちをどう引っ張ってくるかというところでは、資格のない本当に私はきのうまで主婦していたのだよ、だから状況はよくわかるよと。だから、資格のないところのよさというところは、今のところではすごく生かしていけているので、そこはちょっと生かして、このままで見守っていききたいのと、あと専門的なやっぱり虐待対策ワーカーがいたり、心理の専門の職員がセンターの中にはいますので、そこら辺はやっぱり適切な形で支援できるような仕組みは整えているという状況です。

村山委員 ああ、そうですか。

事業課 はい。

伊藤委員 やっぱり先ほど言われた中で申込者とビジターの関係で、地域でその人たちを面倒見ていくというのがコンセプトになっているので、その偏在があまり激しい、こっちのほうで多い。ビジターの人はこっちが多いとかということが現状として出てくるのか、出てきていないのか、それがこう地域の中でマッチングしていると一番対応がしやすいと思うのです。例えば3カ月終わっちゃったって、地域の人だとして認識しているから声かけもできるだろうし、そこら辺がちょっとこのビジターと申し込む人の関係をうまくマッチングさせていく施策が必要だなと考えているのですが、その点は。

二葉保育園 そうですね、今、ビジターさん、登録されている方も本当に大体各出張所単位に1家庭ずつうまくいらっちゃって、利用家庭は今こういう状況で地域ごとに分散しているのですけれども、決して近い地域同士を必ずしもつなげるかということ、そうでもないのです。

というのは、やっぱりこうビジターさんも家庭があって、やっぱり守られるべき権利があるので、住所とかは明かさないようにしているのです。依存を防ぐという意味でもあるので、なのであえてちょっとここは違う地域の方が行ったほうがいいなというケースがあれば、あえて全く四谷の方が落合に行ってもらったりとか、そういうこともあります。

久塚会長 ですよ。

二葉保育園 はい。

久塚会長 これはよくあることだと思うのですけれども、まちで出会って、この近くのみたいな話に逆にビジターさんが聞かれたり。だから、いいことでもあるし、ちょっと気をつけなければいけないところでもあるのでしょね。

二葉保育園 そうですね、はい。

伊藤委員 私たちが子どもの時代って、近所のおせっかいなおばさんじゃないけど、何かあると相談するような人がいっぱいいたじゃない。そういう関係を地域でつくっていくということなのか、今言ったようにバラバラでもいいんじゃない、地域的にそんな連携なくともというスタンスで。

二葉保育園 必ずやりとりは仲介の二葉保育園を通して欠席の連絡ですとか、利用される人もご連絡先は明かさないようにしていますし。そこはちょっと一線を置いての活動になりますね。

宇都木委員 今、伊藤委員が言ったようなことになるのだけど、そうした地域力というのがなくなっちゃっているから、だから地域で問題解決するということは、それぞれの生活者の人たちが抱えている問題をできるだけ地域の人たちが協力し合って解決するという、そういうまちづくりみたいなものがなくなっちゃっている。だから、分断されちゃっているから、特に集合住宅なんかそうでしょう。マンションに100所帯も入っていたら、だれがいるのかわからないもの、一つのまちなのだけれど。

そういうところで、隣で何が起きているのかわからないようなそういうまちのあり方を、もう1回人間同士のつながり合いに変えていこうということだから、だからそういうところをもう少しその地域の仕組みみたいなものでサポーターの人たちだとか、これで皆さん

で言えばビジターだとかオーガナイザーとか、こういう確かにその専門職が必要なのだろうけど、そうじゃなくて普通の人たちでもできるような、サポートしたり、ちょっとしたアドバイスをしたり、支援したりということができるような人たちをふやすということもやっぱり必要だよな。

二葉保育園 そうですね。

宇都木委員 気楽に参加できるようなそういう仕組みをまちのどこかでできていくといいですよな。それは行政でもやってもらえばいいわけで、出張所の事業として皆さんが参加して行って、講師をやったり、話し相手をしたりして専門的な知識を広げていくという。子ども総合センターだけをお願いするんじゃなくて、地域全体がそうならなきゃいけないので。

二葉保育園 そうですね。

事業課 子ども総合センターのほうでは大久保地域の育成会、それと若松地域の育成会に私が出席しているのです。この間、大久保地域の育成会の中でホームスタート事業を周知させていただいたのです。大きいところは目に見えるのですけれども、やっぱり見えない部分というのは、それもマンションの中でとか、戸を閉めてしまえば聞こえないような今の建物の構造になっていたりしていますので、地域の見守り隊、そこら辺のところにもちょっと声をかけていくことで少し効果が出るかなというところで考えまして、それでちょっとこのパンフレット、これをちょっと印刷したものと、お話をさせていただいたところなのです。

ですので、本当そういった形で地域のところでも広めていければいいなというふうに、やはり同じように考えているところです。

宇都木委員 あるところでは提案したのですが、その、センターじゃなくてもいいのですが、出張所などでワンストップサービスみたいな、何かあったらそこへ行けば、だれがどういうことをやっている、どの人たちがどういうことをやっているからそこに行っただらいいよという、そこでインフォメーションというか、案内だけしてあげればいい。あとはそれでつながってやればいい。そういうふうな中の一つにこういう皆さんの活動なんかもあって、だからどこで、だれがどういう活動しているのかわからないから相談もできないということもあるのだから、だからそういうことを本当はもっと細かくやったほうがいいのだと思うんだよな。

案内してあげられるような場所をいっぱいつくらなきゃいけないのよ、そういった縦割

りの悪いところで、高齢者施設は高齢者だけ、子どもは子どもだけ、何とか広場はもう毎日決まっていて、ほかの人は入れないみたいなことじゃなくて。そういう中にそういうさまざまな皆さんみたいなことで活動している人たちがこういっぱいあって、そうするとそこにお互いが交流ができるから、そうなるといいですよ。

久塚会長 きょうの二つの事業ともよく連携しておられるようですよね。

宇都木委員 ですよ、比較的。協働事業の成果ですよ、それは。

本当に高齢化、少子化で大変になるのに、子どもをいじめたりとか、子どもがひどい目に遭ったり、それは子育てを知らないのだから。

例えば、1人育てたら終わっちゃって、育て方なんかわかんないうちに子どもはどんどんどんどん成長しちゃうので。だから、もう少し世の中全体がそういう問題を解決するために努力していかないといけないのですよね。そういう意味では大変いいことをやってもらっているのを広げていってくださいよ。広がるのが大事なことで。

二葉保育園 はい。

久塚会長 虐待の発生を予防するということまで行くと、一つの団体とかだとすごい難しく、やっぱり一番おたくが一番得意なところであると思うのです。それをしっかり持って、すそ野をだれかに援助してもらったり、どこかの行政なりNPOと連携をするなりして、本体が揺らがないというか、それに目が行って、あれもこれもしなきゃとなると一番大きなところが揺らいでしまうので、それはしっかり自分の一番得意なところを際立たせるためにもネットワークということですよ。手を自分が広がっていくというよりは、そういう形で本体部分がしっかりできるようにこれからも頑張っていただければというふうに思います。

ほぼ時間なのでよろしいでしょうか。

野口委員 一ついいですか。

久塚会長 はい。

野口委員 ホームビジターのこの養成やりましたですよ。その方たちの平均年齢はどのくらいですか。

二葉保育園 平均して50代くらいです。5、6歳の子どもをもつ30代の方もいます。お孫さんがいらっしゃる方が三、四人います。大体は大学生の息子さん、娘さんがいる方が一番多いですね。

久塚会長 はい、では、ほぼ時間でございます。どうもお忙しいときにありがとうございます

いました。いいヒアリングができました。

二葉保育園 ありがとうございます。

事業課 ありがとうございます。

(社会福祉法人二葉保育園・子ども総合センター職員退席)

久塚会長 では、残った時間、最初の木育広場、そして二つ目のホームスタートそれぞれ15分ずつぐらいお話、意見交換をしていただいて、最後にはその二つのものであわせて何かありましたらお願いします。最初は1番目の事業だけに限定して意見を出していただければと思います。

伊藤委員 木育広場は、先ほどあったように10月1日に始まったばかりで、それだけ見ているとある程度いいのだけど、みんなが初期のこの採択したときに懸念したように地域的なもの、四谷地区が多いということが一つあるということと、その解消法としてみんなで考えたのが出前のもの。それを早く計画に組み込んで、実施計画に落とし込んでほしいなという気がしたのです。

それともう一つは来る人とかの、皆さんが質問したものの素データはあるのだけど、その分析というか、細かく分けしている。例えばお母さんと来た、お父さんと来た、何歳児がどうのこうのというそういうようなデータを整理する、これからしていくのだと思うのだけど、そうすると見えていないものが見えてくるような気がしているのです。そこを確実に3カ月なら3カ月サイクルでこう見ていくとかしてほしいなという気がしましたね。

久塚会長 では、野口さん。

野口委員 新宿区全域展開ということで木育広場をやろうとすれば、これはまた違う予算とか計画の練り直しというのが出てくると思うのです。かなり結構金額を出してくるんじゃないかなという気がするのですが。きょうのヒアリングでは、前向きな姿勢というのは見受けられました、今後の展開としてですね。

久塚会長 難しいのは担当課もだけど、ほかのものじゃだめなのですかというのがどうもこうあって、経験していないので木育がそういいからだというふうになっているところが最初から最後まで、言葉は悪いのですが引かかる。多くの人にとってそうなんじゃないかと。それは広がりところでやっぱりブレーキになっちゃう。

でも、経験して非常によかったら、いろんな商品だとかサービスと同じようにバツと広がる可能性を持っているものだと思うのです。

の場委員 さっきその写真で赤ちゃん木育広場の様子を見させていただいたのですが、そんなにおもちゃが美術館のほうとあまり変わらなかったのです。木で枝みたいになって落ちているの、もともと広場にもあったし、あと木のボールプール、あれも美術館のほうにもあって、ただ木の形が変わっただけじゃないという印象があって、その違いはどのようなのかなという印象を受けてしまいました。

久塚会長 なるほどね。だから、これは協働事業提案制度をこれからどう進むのかなというようにことを考えるときに、やっぱりNPOの本体のもともと持っているNPOのほう、目的だとか事業に近いものと、提案制度でそのものずばりじゃなくて、だから何か力があるのでそれとの重なりのごあいなのでしょうね。

だから、再利用みたいにされたらやっぱり困るので、そこの考え方ということになるのでしょうかね。

宇都木委員 おもちゃの図書館だから、もともとそういうものなのだよ。それがだからおもちゃの数がふえてくるだけの話なのだ。だから、今度のやつもあれが終われば、そのおもちゃの図書館の一つのあれで残っていくわけで、だから残っていくというか、今までもあった。それを使っているのですよ、それは。

久塚会長 で、きょうお持ちになったのを300個つくるのに参加してもらおうということなのでしょうね。

伊藤委員 宇都木さんが言うように0から2歳に提供できるものをただこっちへ持ってくる、チョイスしてね、多分ね。新しくつくるのは少ないと思うよね。

久塚会長 だから、なかなか難しいところで、市民活動みたいなのは目に見えて数字で出てくる効果じゃなくて、人と人との関係のありようが変わったねというのは何かわからないですよ、うまく。結果として不幸な出来事が減っていくとか、そういうような話になっていくのでしょうかけれども。

だから、こんにちはこの声かけ運動も声かけりゃいいという話じゃないんで、ああいうところからじわっと何かを展開するものが出てくるように。最初の事業については、私は行政のほうがよく歩んでいったのだらうなとか、NPO側からのほうの書き込みのところにあったのですが、いろいろ工夫したり、どうしたらできるのかなということを考えたのだらうなという気はしましたけどね。

宇都木委員 行政側にとってはおもちゃで遊ばせると言うよりも子育て支援だよ。だから、そのことを、木育という名前を使っているけど実際はそういうところに来て、お母さんたちや子どもたちの育て方だとか、遊び方だとかということをお母さんが勉強して行って、子育てを勉強していくとか、学んでいくとか、そういうことだと思っているので、そのところは行政の側が見詰めるこの事業のあり方というのは、かなり後での評価でいいのだろうけどきっちり行政側もそういう面で評価もして、もう1回見てもらいたいと思うのだ。

ただ、木で赤ちゃんを遊ばせて、1日か半日そこで時間をつぶせばいいという話じゃないからね、これは実際問題は。

久塚会長 それはそうです。

宇都木委員 あの人は人が来てくれて、そこで遊んでいってくれりゃいいのだ。という程度の話だと困るわけだよ。だから、そういうもう少し子育てだとかいうことに意識を持っていけば、よそのところにも出て、こういう格好で子育て支援ができるのだよということだよ。そへ出て行くというのは当たり前の話になっていかないと、四谷のあそこだけで何かやっごちやごちややっているというだけの話じゃ困っちゃうのだよね。

だから、それで費用がかかると言うのだったら、それは工夫をしてもらってやらないと事業目的達せられないということになるからね、四谷だけだったらまさにパイロット事業みたいなことで終わっちゃって、協働事業の意味が薄れちゃう。

伊藤委員 あとは的場さんが言っていたようにレポートが出ると思うのだ。なぜ木じゃなくちゃいけない。木の効果はこうある。そこが出るとある程度はつきりするのだけど、私たちのちっちゃいときは木のブロックで積み木をやったよね。今はプラスチックだよ、リブロックだとか何だとか。それと極端なことを言ったら、両方やってみたらどこが子育て違うのというのがわからないじゃない(笑)。それが、だから何で木でやらずに木でやらないのというところが、レポートを期待するしかないのだよね。

宇都木委員 それを大学の先生が研究してくれると思うのでしょ。

伊藤委員 ねえ、そう。

宇都木委員 大学の先生が。

伊藤委員 だけど、レポートというのはいいところだけ選んでくっつけばいいものができるので、悪いところは全部落としていくからね。

野口委員 だけど、昔だって積み木なんてそういうものがあったって、子どもは積み木でも

って結構遊んだし、またいろんな物を、木の枝とかそういうもので何かつくってみたり、まあ、いろいろやってみてから、やっぱり何も2歳以下で木育やる必要性ってあるのかなという気がするのですが。

久塚会長 それが一番得意なところだし、もっと言えば新宿区や日本や世界の中で、子育ての支援という中でここがどう位置づけているかということですよ。自分たちのやっていることが大きな意味での福祉の中のどういう位置にあるのかということがきちっと理解できていて、ここがうまくいけばここにつながって、ほかのところが生き生きになってくることが意識されて、それを実際にしているということだろうと思うのです。

だから、あまり木育、木育と言わなくてもいいことなのかもしれないけれども、そう言わなかったら似たようなのがいっぱい出てきちゃうし、ひょっとしたら木育というのも非常にいいことかもしれないです。

竹内委員 木が主体にはなっているのですが、これはあれですよ、ボランティアとのかかわり合いで子育てをしようということなので、ちょっとまだデータが出ていないのでわからないのですが、本当にそのボランティアと来た人の中でちゃんとエンパワーメントがとれて問題が解決していくかというところが疑問なところがありますよね。

普通は集まった人たちでいろんな話をして解決するみたいなのところがあるのですが、個人同士で。これをボランティアでそれを解決しようという話だから、かなり難しい話になってくるんじゃないかなと。だから、ちょっとまだスタートしたばかりなのでわからないのですがね。

野口委員 ただ、そのスタートしたばかりだけど、年間40名ですか、ボランティア養成。

竹内委員 1日3人という。

野口委員 そうすると、要するに多世代交流で構成しなくちゃいけないコミュニケーションが初めからそれが無いわけだよね。だから、ここは話を聞くと女性の方で、男性は入っていないから、若い人も少ないとか。そうすると何か多世代の交流がボランティアを推進するためにはそういう年齢構成で行こうというこの発想が、まずそこで崩れちゃうんじゃないかと思うんです、コミュニケーションを円滑にして、いろんな人の話を聞いて、それを子育てに生かしていこうということですね。

伊藤委員 木育というのは前も言ったのだけど、木のおもちゃで遊ぶだけじゃなくて、木本来の成長から行くべきだと思う、僕は。だから、美術館の中でおもちゃをいじってい

るんじゃない、区の施設として新宿の森があるじゃない。そういうところとの連携だとか、新宿の森の木でこういうのができて、それで遊んでいますとか、そっちのほうといるとやっていけなくちゃいけないものだと思うのだ。どこからか持ってきた木で遊んでいるより、新宿の森で切った、で、物でこういうものをつくりました。新宿の森、こういうところでやっています。皆さんも木の本質を見るためには植樹を、それから草刈り、で、どうですかとか。木育というのはそこから始まるものだと思うている。

久塚会長 だから、そうかもしれないけど、やっているの、どういうふうにすればさらによくなるというふうにすると、やっぱりネットワークかね、どうなのだろう、課題は。広がり。だから、事業としては担当課のほうも課題は何か思っていると思うのです。

伊藤委員 僕だったらやっぱりそれを新宿の一つの事業として、新宿の森の伐採した杉を生かそう。そのためにああいうのをつくったと。秋田杉とかどこかの京都の杉やらよりもインパクトというか、新宿区の姿勢としてのインパクトがある。それもやっぱり目指すのもNPOだと思うし。

久塚会長 では、ホームスタートで何かありますか。

竹内委員 やっぱり一番最初から懸念していた、要するにホームスタートのどういうところにやるかというところがやっぱりなかなか難しいようで。

久塚会長 難しいですね。

竹内委員 当初は児童館ですとか、保育園ですとか、あとは何だろう、あそこはいろんなところを考えたので、保健センターも今回やっているようでしたけど、宇都木さんのほうから出張所とかそういうところも対応したらどうかという話があったので、その辺をやっぱりもうちょっと広げる必要があるような気がしますね。何しろないものを発掘しなきゃいけないので。

久塚会長 そうですよ。

竹内委員 大変だと思うのですよね。

久塚会長 しかも必要度が高くなればやっぱり行政とかより専門性の高いところにつないでいかなきゃいけないことも内側に含んでいるわけですよ。やっていることはいいことなのですがね、どういうふうにとプログラムとか、描いたことが実現するのとかというところで苦労はしますよね。

伊藤委員 ビジターさんの役割ってただ行っているだけじゃないと思うのです。どんなことをやらなきゃいけない。例えばここに出てきて、何か1回いろいろ頼まれる、お使い

頼まれたりする。では、それを断るのだけど、ただ断るんじゃなくて、これはどこにつながればいいのかということまでそのビジターさんに知ってほしいなぐらいに。

だから、これは社協さんに電話したらいいんじゃないですかとか、区の総合センターに電話したほうがいいんじゃないですかとか、そういう切り分けを勉強してほしいなという気がするのです。

できませんよ、私たちは仕事として入っていないのでと言うよりも、そう言うところとその後、その人がまた悩んじゃうじゃない。それはこことこことをつないでやれば、ある程度安心すると思うのだ、その人も。今度はそっちへ話しかけるし、できることはそのビジターに相談するしというようなことも思いましたね。

久塚会長 ただ、やっぱりルールはある程度つくっておかないと、あそこの団体のAさんはしてくれたのにBさんはしてくれないという話が広まると、全体崩れていきますから難しいところでしょうね。

だから、基本はご本人と一緒にあればという、あくまで本人が自分で一生懸命やろうとする力を失わせないということですかね。

宇都木委員 どういう評価すりゃいいのか、量的な評価も考えなきゃいけないでしょう。

久塚会長 でも、難しいよ、量ではできないと思う。

宇都木委員 だから、10件ぐらいしかやっぱりいなかったのですということになったら、それはやっぱり事業としてどうなのかということになりますよね。だから、今のやり方していたら申し込みだけだから待っているしかない。

でも、待っているんじゃなくて、そういう機会を、何かいっぱい相談会やったり、ほかのところとの連携でやったりしないと、きっとそんなにふえないよね。なかなか相談する人たちというのはそうたくさんいないんじゃないかと思うのよね。難しいですね、特に若い人たちなんていうのは、そういうところに相談行くところがあるのか、ないのかもわからない人たちがたくさんいるわけだから、ましてや日常的にそういう情報がそういう家庭に入るなんていうことは少ないのだから、もっとそういうことをもう少し考えないといけないなと思いますね。

久塚会長 広がりですかね、広がり。いいことなのでしょう、いいことをやっておられるのですが、ほかにございませんでしたら、きょうのヒアリングをもとに報告書を作成していく、評価書を作成していくことになりますので、その手順等につきまして、あるいは次回以降の予定につきまして、きょうの議題の3番目に入っていきます。

では、事務局お願いします。

事務局 本日お配りしました資料の①、②に当たるものですが、そこに評価を記入していただくようになります。本日会議終了後に評価書の様式をデータで皆様のほうにお送りさせていただきます。

あと、その各委員からの提出は、10月23日の日曜日までに事務局のほうにデータでお返しいただきたいと思います。事務局で取りまとめたものをもとに次回開催の評価会で評価点を決定していくというような作業を行うようになりますので、10月23日の日曜日までにご提出いただきますようお願いいたします。

今後の評価会の開催についてですが、評価会のスケジュールを修正したものをお配りさせていただいております。この評価スケジュールで黄色で塗ってあるところが評価会、それで緑色のところが審査会になります。オレンジのところが支援会議となっております。評価会、5回予定をとっておりまして、評価会は次回が10月27日の木曜日、1時から4時までとなります。場所は第二分庁舎の分館の1階の会議室になります。

その次が10月31日は審査会になりますので、皆様からご提出いただきました審査の課題等まとめたものについて審議をしていただくようになります。

続きまして、11月21日月曜日が第3回評価会になります。こちらも第2分庁舎分館の会議室で2時から行う予定です。

27日はきょうヒアリングをおこなった2事業の点数を決定するのと今年度2年目になった2事業のヒアリングです。

事務局 27日の評価会では、OHPを使った要約筆記を入れますのでよろしく願いいたします。その際にやはりご発言するときに、要約筆記の方が名前がわかるように名前を言ってから発言をというふうにお願いします。

それから、その次の評価会が11月21日月曜日なのですけれども、こちらは今実施している2年目の事業の残りの粋なまちづくり倶楽部のヒアリングを行って、それから評価書のまとめ、きょうヒアリングした事業のコメントのまとめ、それから次回ヒアリングを行う事業の評価点の決定の作業を行います。

その次が12月15日木曜日になります。こちらの評価会自体の時間は2時から4時ということでとっているのですが、その前に1時30分から2時までの時間帯で区長に審査会から審査報告書を提出していただきたいと考えておりますので、来ていただく時間としては1時30分からになりますのでご注意ください。

1月下旬についてはまだ日程決まっておきませんので、また決まり次第お知らせさせていただきます。

久塚会長 では、きょうは終わります。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

各委員 ありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。

— 了 —